

キャラクター名 プレイヤー名

種族	エルフ	種族特徴	暗視、剣の加護/優しき水		
生まれ	魔術師	性別		年齢	
冒険者Lv	5	経歴			
経験点	50				

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
技	10	器用度	6	2		18	3
		敏捷度	8	1		19	3
体	3	筋力	4			7	1
		生命力	8	2		13	2
心	13	知力	9	3		25 + 2	4
		精神力	8	4		25	4

[illegible]

練習/呪歌/騎芸/賦術		名誉アイテム	点数
		名誉点所持 150 /合計	150

技能	技能	基本	基本	基本追加	鎧と盾	必要				
	レベル	命中力	回避力	ダメージ		ランク	筋力	回避力	防護点	
ファイター	0				鎧	ソフトレザー		7		3
グラップラー	0				盾					
フェンサー	0				その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
シューター	0				回避技能		合計値	0		3

[illegible]

一般装備品	(消耗チェック)
冒険者セット	〇□□○□□
スカウトツール	〇□□○□□
魔晶石（5点）x10	〇□□○□□
	〇□□○□□
	〇□□○□□
	〇□□○□□
所持金	6880 G
預金・借金	G

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP	魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
3 _m	19 _m	57 _m	2d+ 0	3	28	真語魔法	5	9			
魔物知識/弱点			先制力		生命抵抗	精神抵抗	MP				
2d+ 5		2d+ 8	2d+ 7	2d+ 9	40						

装備品		説明
頭		
耳		
顔		
首		
背中		
右手	知力増強の腕輪	
腰		
足		
その他		

装備品		説明
左手	知力増強の指輪	

その他メモ	自動失敗 チェック
私は魔術師になるべく幼いころより魔法使いの弟子として修業をしてきた。修行の成果があり一人前になり、とある貴族に「魔法の先生」として雇われることになった。その子はいじめられっ子らしく、いじめられないよう強い魔法がほしいらしくった。私はその子のために一所懸命魔法を教えた。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ⑤
コンジャラーの魔法は使えない未熟な私だがその子は先生として私を慕ってくれた。そんなある日私はその子に「好きだ」と告白された。政略結婚も決まってるのに・・・なんでもその子曰く「政略結婚相手がいいめっ子なんだ。だから一緒に駆け落ちしてくれ」とのことらしい。私は告白されたことがばれ、「貴族をたぶらかした罪」でその家を追放された。追放された今となってはその子が本当に私に恋をしていたかどうかなど知りようがない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ⑩ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ⑮ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ⑳
私はほどなくして冒険者を始める。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ㉕ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ㉟ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ㊴